

第3章 子ども読書活動推進のための方策

A 家庭における読書活動の推進

◆現状と課題◆

子どもの読書習慣の確立には、子どもの生活の基本である家庭での日常生活の中で、保護者が子どもに読み聞かせをしたり、一緒に本を読みながら会話したりするなど、保護者を始めとする大人の積極的な関わりが重要です。

しかし、インターネットや携帯電話の普及、核家族化やレジャーの多様化など子どもを取り巻く生活環境の変化により、様々な情報を得る機会に恵まれた一方、本に親しむ時間が減り、子どもの活字離れが進んでいると言われていています。

本計画の策定にあたり、国東市内の小学校2年生・5年生の児童、中学校2年生の生徒とその保護者を対象にアンケートを実施したところ、下記のような調査結果が出ました。（回収率、86%）

【読み聞かせ】について

「読み聞かせをしている（していた）」と答えた家庭は、回答を寄せていただいた家庭の中で、59%でした。23年度調査と比較すると3ポイント上昇したものの、小学校2年生・5年生及び中学校2年生を、学年を追って比較すると、「読み聞かせをしていない（いなかった）」家庭が、学年が上がるにつれて増加することが分かりました。

また、「読み聞かせをしている（していた）」と回答した家庭の中で、読み聞かせの頻度について回答を寄せてくれた家庭は、98%でした。その頻度は「ほぼ毎日」が17%、「週3～4回」が30%、「週1～2回」が38%、「月1～2回」が15%という結果でした。このことより、家庭での読み聞かせは、あまり定着していないと考えられます。

項目	23年度末調査時点	29年度末調査時点
読み聞かせの実施率	56%	59%

「読み聞かせをしていない（いなかった）」家庭の内、87%の家庭が下記のような理由をあげてくれました。「時間がない」が54%、「必要性を感じない」が14%、「何を読んだらよいかわからない」が10%でした。「その他」の22%は、次のような回答でした。「本は自ら読書した方がよいと思う」「本は自分のスピードで理解しながら読むべきである」「読み聞かせは小学生までで、中学生なのでやめた」等です。

理由として一番多くあげられている「時間がない」については、その時間を捻出する方法として、「読み聞かせの時間をどのようにつくりましたか」の問に対して、以下のような方法がとられていました。

- ・ 平日の寝る前や休日のゆったりした時間に一緒に読む時間をつくっていた時。
- ・ 家事が空いた時。子どもが読んでほしいと言った時。
- ・ 宿題が早く終わった時。
- ・ 市図書館に行った時。

どれも忙しい家事や仕事の合間をぬって、子どもの気持ちに寄り添った取組が紹介されていました。これらの回答を参考にしながら、各家庭に合った取組の展開が期待されると思います。

【読書好きにすること】について

「どうすれば子どもが読書好きになると思うか」という問について、1060件の複数回答が寄せられました。「本を買ってあげる」が12%、「家庭で読み聞かせをする」が20%、「図書館に連れていく」が23%、「親が読書している姿を見せる」が16%、「同じ時間に親子と一緒に読書をする」が14%、「本についての話をする」が11%でした。「その他」として3%の回答がありましたが、次のとおりでした。「本を読むことの楽しさやメリットを教える」「本に対する興味を持たせる」「好きな本に出あえるようにする」「本を身近に感じさせる」等です。

子どもを読書好きにするというのは、保護者にとって大きな関心事です。そのためには、各家庭で意識して本にふれる機会をつくるのが、地道ではありますが最良の方法と考えます。

<読書が好きな子どもの割合>

	23年度末調査時点	29年度末調査時点
小学生	89%	87%
中学生	72%	66%

<1か月に1冊以上本を読む割合>

	23年度末調査時点	29年度末調査時点
小学生	98%	99%
中学生	85%	84%

【ブックスタート事業との関わり】について

現在、市図書館では市内で生まれた全ての赤ちゃんが、絵本を介して保護者との楽しい時間を持てるように支援する「ブックスタート」事業を実施しています。4・5か月健診の際に、絵本の読み聞かせとプレゼントを提供しています。このブックスタート事業を介して、家庭には子どもの読書習慣の形成が図られるように、絵本や読み聞かせの情報を積極的に取り入れたり、気軽に本について相談したりすることが、求められています。

これらのことから、保護者自身は読み聞かせの意義について理解を深めるとともに、本に関する知識や読み聞かせに関する情報の取得に努める必要があります。

◆重点方策◆

★親子で読書をする時間を意識して設けます。

★保護者等による読み聞かせを行います。

★市報、ホームページ、ケーブルテレビ、市図書館広報紙や各種講座、教室、行事などを通じて、保護者は、読書の大切さや意義、読み聞かせの方法や本についての情報について、理解を深めます。

◆取組◆

①読書環境の整備

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
図書の充実	子どもに買い与える図書は、家庭によって量・質ともに個人差が大きい。	市図書館に子どもを連れて行く。 市図書館のリサイクル本を活用する。

②読書に親しむ機会の提供

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
親子読書運動	家庭によっては「ノーメディアデー」(ゲームをやらない、テレビを見ない)を設けている家もあるが、多くは無い。	「家読(うちどく)運動」と「ノーメディアデー」との連携した取組を行う。
読み聞かせ	子どもにあまり本の読み聞かせをすることができていない。	市図書館が主催する「おはなし会」に、参加する。

③読書活動の啓発・広報

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
市図書館の発信する情報の取得	市報やホームページ、ケーブルテレビなどを活用して、新着本や行事に係る情報の取得があまり行われていない。	市報やホームページ、ケーブルテレビなどの情報を意識し、図書に関する情報を積極的に取得する。
本の紹介をする	発達段階に応じて、子どもに読んでほしい本の紹介ができていない。	子どもが集まる施設・学校・市図書館等からの情報を基に、子どもに本の紹介をする。
家族の読書	家族で読書する時間が、あまり設けられていない。	子どもと一緒に読書をしようとする姿勢を見せる。

④ネットワークづくり

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
市図書館のブックスタート事業の活用	4・5か月や1歳6か月の健診時に市図書館からサービスの提供を受けているが、家庭における読み聞かせのスタートとしてのきっかけになっていないケースがある。	市図書館から提供された本で、親子で読み聞かせをする。
市図書館主催の行事へ参加	市図書館がどんなところか、どのような行事を行っているか、これまで知らなかったしあまり関心がなかった。	市図書館からの情報を取得し、本についての知識を増やしたり市図書館行事に積極的に参加したりして、市図書館との連携を行う。

⑤専門的職員の確保と資質向上

項 目	現状と課題	課題の解決に向けて
読書や読み聞かせに対する 関心・意欲	読書や読み聞かせについて理解を深めたり、その方法を磨いたりする機会が少ない。	市図書館が読書ボランティア対象に開催する研修会に参加する。

B 子どもが集まる施設における読書活動の推進

◆現状と課題◆

子どもが集まる施設は、様々な体験を通して豊かな感性や創造力を育てる場であり、生涯にわたる「生きる力」の基礎を培う場でもあります。その中で、読書は、子どもたちの心の成長に大きな役割を果たします。

国東市には、現在31か所（資料Ⅰ、第2次「国東市子ども読書活動推進計画」策定調査協力先一覧、参照）の子どもが集まる施設があり、これら施設を対象としたアンケート調査を実施したところ、下記のようなことが分かりました。

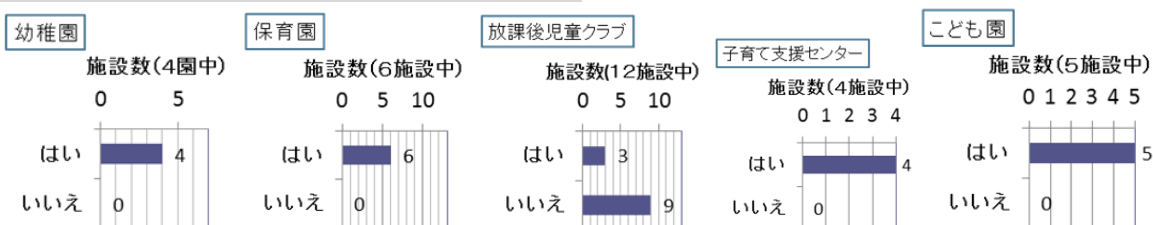
【読み聞かせ】について

読み聞かせは、実施が難しい一部の放課後児童クラブを除き、22か所（71%）の施設で行われています。読み聞かせをしている施設で、毎日継続して実施しているのは、13か所（59%）です。しかし、読書ボランティアが読み聞かせに参加している「子どもが集まる施設」は、9か所（29%）にとどまっています。

項目	23年度末調査時点	29年度末調査時点
読み聞かせの実施率	92%	71%

※29年度より、区分を「子どもの集まる施設」とし、放課後児童クラブ・子育て支援センターを加えました。

< 本の読み聞かせを実施している施設数 >



【図書コーナー】について

すべての「子どもが集まる施設」には、「図書コーナー」が設けられていますが、蔵書数は20冊～1,000冊程度と、施設によっては相当のばらつきがあります。

「図書コーナー」の本を「子どもに貸出している施設」は、11か所（35%）です。また、家庭に貸出して保護者に読み聞かせをしてもらおうと啓発を図っている施設は、6か所（19%）あります。これには、蔵書購入の予算化やその管理の難しさが問題となっていると考えられます。

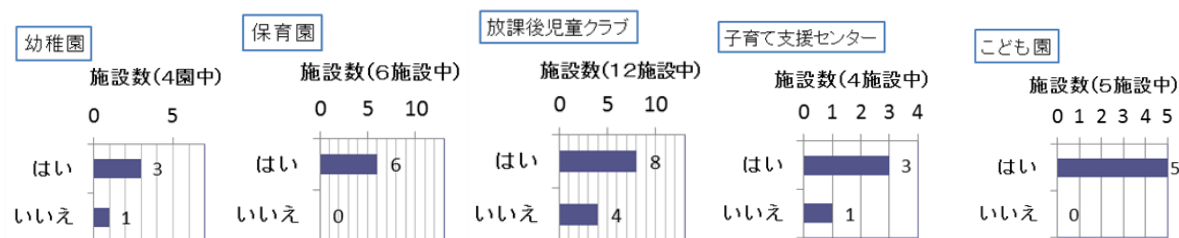
【市図書館の利用】について

「子どもが集まる施設」で、市図書館の「団体貸出」を利用している施設は、25か所（81％）です。「団体貸出」については、児童書に限らず、大型絵本やパネルシアターなどが活発に利用されています。

さらに、施設として市図書館で行われるイベントや図書館行事に参加したり図書館見学をしたりしたことがある施設は、6か所（19％）です。

項目	23年度末調査時点	29年度末調査時点
市図書館の団体貸出利用率	85%	81%

< 市図書館の資料を団体で借りたことがある施設数 >



【読書を推進する手立て】について

子どもたちが本に親しむために取り組んでいることを記述してもらった結果は、下記のような内容でした。

- ・毎月の行事予定に『読み聞かせ』を取り入れるようにしています。
- ・保育計画の中に、絵本計画を入れてます。
- ・特別な取組をしているという意識はなく、毎日の生活の中で、絵本を読んでもらう事は、当たり前のように根づいている感覚です。子ども達にもそうになってほしいし、実際、そうになっています。
- ・子どもたちが自由に本を選んで読めるコーナーづくり、季節に応じて本の入替をして直に手に取れる環境づくりに努めています。
- ・散歩で図書館へ行き、好きな本を選び、家庭へ持ち帰ります。
- ・保護者が家庭で読み聞かせを進められるように、図書カードを作り、園の絵本の貸出を行っています。
- ・絵本タイムの時に、自分たちで読んだり読み聞かせをしたりしています。
- ・家庭への声掛けで、1日1冊、家での読み聞かせをお願いしている。
- ・市図書館の「図書館まつり」や「クリスマス会」への参加の呼び掛けを欠かさず行っています。
- ・放課後児童クラブで、希望する子どもは、学校内の図書館に行くことをすすめています。
- ・学期ごとに2週間程度の「読書週間」を設けています。
- ・読書カードを作成して施設内の図書館の本だけでなく、学校や図書館で借りた本も読んだページ数を記入させるようにしています。
- ・図書館の司書にお願いして「ブックトーク」をしてもらっています。子どもたちは、紹介された本に興味を持ち、その本を多くの子ども達が続きを知りたいと言って、読む姿が見られました。

【自由記述】について

- ・図書館だけが頑張っても難しく、子育て中の親、教育機関、子育て支援に携わる者、行政（適切にお金を支援してもらう）等を巻き込み、皆で共通理解を持って継続的にコツコツとアイデアを出し合って取り組めば、本に親しむ市民は増えていくと思います。
- ・親にどうやって伝えていくかだと思います。図書館だより等を支援センターに置いてもよいと思います。そこから、私たちもお母さんたちとの会話に繋がっていくと思います。

◆重点方策◆

- ★蔵書数の差が読書環境の格差とならないよう、市図書館の団体貸出の利用やリサイクル本の活用を積極的に行います。
- ★各子どもが集まる施設の状況に応じて、読み聞かせや読書の時間を設定しその充実を図ります。
- ★市図書館と団体貸出、読書活動の啓発・広報などの活用を通して連携をしていきます。また、読書ボランティアとの連携を強化します。
- ★県立図書館の「子ども読書支援センター」事業などを利用し、講師を招いて研修を行い、読み聞かせの技術向上や子どもの読書に関する意義や本に関する新しい情報が得られるよう、学習機会の充実を図ります。

◆取組◆

①読書環境の整備

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
図書コーナーの設置	図書コーナーとして本を置く場所を作っているが、「図書室」として本を読むためのだけの部屋は、確保が難しい状況にある子どもが集まる施設が多い。	子どもの目に触れる場所に絵図鑑を置いて興味を持たせるようにしたり、子どもが自分で本を取れるように配置を考えたりする。子どもたちが読みたい時にすぐに手に取れるような環境づくりに努める。
蔵書の充実	子どもが集まる施設によっては、蔵書数に大きな開きがある。蔵書を置くスペースや、図書購入の予算の確保が難しい。そのため市図書館の団体貸出を利用している施設も多いが、貸出期間・冊数の制限があるため、利用を躊躇する場合もある。	市図書館の団体貸出の利用促進に努める。また、「読書週間」時のリサイクル本の活用を図る。家庭で不要になった本の回収を呼び掛け、集めて施設での蔵書を増やす。

②読書に親しむ機会の提供と充実

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
読み聞かせ	就学前の幼児を預かる子どもが集まる施設では、「読み聞かせ」を実施している。ただし、読書ボランティアによる読み聞かせを実施している施設は少ない。読書ボランティアの読み聞かせを希望している施設も多いが、できていない状況にある。	市図書館から情報を得て、読書ボランティアとの連携を図り、読み聞かせを実施する。
週1回以上読書の時間の実施	好きな本を読む時間を設ける、友だち同士で本を読み合う、本のタイトルを記入したりミニノートをつけたりするなどの取組をしている。	保護者会等を通して、読書推進に伴う講習会を開催する。(県立図書館子ども読書活動推進員の派遣)
家庭への図書の貸出	子どもや保護者への本の貸出を実施している子どもが集まる施設は少ない。しかし、貸出カードを作り週末に貸出を行っている施設もある。蔵書数と本の管理の難しさが課題である。	保護者や子どもに貸出するための環境整備に努める。

③読書活動の啓発・広報の充実

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
保護者への情報提供	「たより」でおすすめ本を紹介してる子どもが集まる施設もある。保護者会において「読書」をテーマに講演会を実施した施設もある。しかし、保護者への情報提供や啓発は、十分にはできていない。	保護者会で情報提供や啓発を促す。必要に応じて、市図書館を通して講師の人材派遣や情報の提供を受ける。市図書館サービスや年齢別の本のリストを活用する。

④ネットワークづくり

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
市図書館の資料の利用	大型絵本やパネルシアターなどを利用している子どもが集まる施設もあるが、十分に利用できていない所もある。	エプロンシアターやパネルシアターなどの本以外の資料活用も促し、市図書館側の情報提供を受けて利用していく。
子どもが集まる施設と市図書館との連携	市図書館の「団体貸出」は利用している子どもが集まる施設は多いが、十分な連携とまではできていない。	子どもが集まる施設と市図書館が連携をすることにより、家庭での読書活動の推進に繋げる。
読書ボランティアとの連携	読書ボランティアが入って読み聞かせをしている子どもが集まる施設は、少ない。読書ボランティアが施設と連携して、独自に活動するのには限界がある。	子どもが集まる施設と読書ボランティアや市図書館との情報交換の場を設定し、連携する。

⑤専門的職員の確保と資質向上

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
職員の研修会への参加	読み聞かせや本選びについては職員が行っている。その方法についての講習や情報については、市図書館から子どもが集まる施設向けの情報発信は十分にされているとはいえない。	講習や情報交換の機会を市図書館を通して取得する。県立図書館の「子ども読書支援センター」事業を利用した講師派遣による研修を実施する。

C 学校における読書活動の推進

◆現状と課題◆

学校図書館は、国や県の「子ども読書推進計画」への取組を受けて、本が好きな子どもを育むための「読書センター」、本を使って調べ学習ができる子どもを育むための「学習・情報センター」としての機能が、従来以上に求められています。

また、新しい学習指導要領で、「読解力・表現力」や「想像力・創造力」等の育成のために、読書活動・図書館利活用が重視されているとともに、引き続き「言語活動」の充実も求められていることから、授業で学校図書館が使われる機会が益々増加しています。

国東市には、小学校11校、中学校4校、高等学校1校があります。計画の策定に際して、小・中学校へのアンケート調査を実施しました。その結果の詳細は、資料編で示しますが、概要は下記のようになります。

【読み聞かせ】について

小学校では、全11校が実施しており、回数も週1回以上が9校、月2回程度2校となっています。読書ボランティアが全校で読み聞かせを行っており、中には学校司書や子ども司書による読み聞かせを実施している小学校もあります。

中学校では、読み聞かせを実施しているのは4校中1校のみで、対象学年も1・2年生になっています。この場合も、読書ボランティアによる実施となっています。

<読み聞かせの実施率>

	23年度末調査時点	29年度末調査時点
小学校（11校）	100%	100%
中学校（4校）	0%	25%

【朝の読書時間】について

小学校では、全11校が「朝の読書活動」を設けています。毎週3回が2校、週2回が6校、週1回が3校となっています。

中学校では、4校中3校が学年を限定した上で、毎朝10～15分程度「朝の読書活動」を実施しています。しかし、全校での取組はありません。

<週1回以上、朝の読書活動の時間を設けている学校>

	23年度末調査時点	29年度末調査時点
小学校（11校）	100%	100%
中学校（4校）	75%	75%

【授業での図書館の本の利用】について

小学校では、全11校が、授業で本が利用されています。平成29年4月～12月の9か月間で、国語科では並行読書に、理科・社会科・総合的な学習の時間では調べ学習のために、104回に渡り授業の中で本が効果的に活用されています。その内64%に当たる67回が市図書館からの貸出です。

中学校でも、4校中3校が授業で本の利用がされており、小学校に比べて数は少なく、その回数は11回で、市図書館の貸出を利用したものは、36%の4回です。

【学校図書館の使い方や調べ方の指導】について

小学校では、全11校で学校図書館の使い方や調べ方の指導が実施されています。

平成29年4月～12月の9か月間で、指導の実施回数は62回です。その内、学校司書が自らまたは担任等と共同して指導に当たった回数は、84%に当たる52回にのぼります。

一方、中学校でも全4校が、学校図書館の使い方や調べ方の指導を実施しており、指導の実施回数は小学校に比べて少なく10回でしたが、その40%に当たる4回が、学校司書が自ら又は担任等と共同して指導に当たっていました。

【読書を推進する手立て】について

〈小学校〉

- ・読書パズル、読書ビンゴ、読書ラリー、読書すごろく、読書クイズ、読書55運動、親子読書、「家庭よむよ〜び」等を実施しています。
- ・PTA研修部が中心となって、毎月1回「読むDay（デー）」という日を設けています。午後5時30分～7時まで図書館を開放し、児童と保護者が自由に図書館に来て読書をしたり本を借りたりできるようにしています。読み聞かせも行っています。
- ・学年別のおすすめの本（20冊）の設定をし、毎月学年ベスト5の表彰をしています。
- ・授業での調べ学習や本を利用した活動を取り入れる以外にも、読んだ本の交流ができる機会をもったり意欲付けのコーナーを設けたりしています。
- ・読んだ物語の登場人物がどのような人物だったか、どんな感想を持ったか、などをカードに書かためていくことで、たくさんの本を読んでいるという達成感をもたせています。「よむよむ」の記録カードへの記入の取組も行っています。
- ・朝の時間や空き時間で、長い本を数ページずつ読み聞かせ、長い本の面白さを紹介している。
- ・市図書館から毎月出される「おすすめの本」を全校児童が読む（学年で決めた本）ことを目標にし、100%読破をめざしています。

〈中学校〉

- ・図書委員会の活動として、読書ビンゴ、多読者プレゼント、先生・生徒のおすすめ本の紹介、学級文庫の貸出、図書新聞の発行等を行っています。
- ・学校司書からの「図書だより」による、貸出統計の回覧と掲示を行っています。
- ・給食の待ち時間等の「すきま読書」の奨励をしています。
- ・生徒会図書部による読書集会の開催をしています。

【学校図書館の選書】について

児童・生徒や教職員にリクエストをとり、学校司書が集計し、学校図書館担当教員と相談し選書リストを作成しています。最終的には学校長が決定しています。

【学校図書館の開館時間】について

開館時間は、小学校では朝・中休み・昼休みに限定している1校を除き、全て始業時から下校時まで開館しています。中学校は、昼休みは開館しています。また、司書来校勤務日は、一日開館しています。

貸出可能時間は、小学校では終日可能なのは4校のみで、他の7校は多少の制限があります。(他の7校の内訳：昼休み－1校、朝・昼休み－1校、中休み・昼休み－3校、朝・中休み・昼休み－2校)

中学校は、全4校が原則昼休みです。ただし、1校は司書来校勤務日は、放課後まで可能としています。

【新聞】について

小・中学校、全校に新聞をおいています。数については、多少の違いが見られます。ただし、各校への予算配分は均等ですが、地元の新聞屋・業者等から提供があり多少の差が生じています。

小学校では、1紙が2校、2紙が7校、3紙が2校です。中学校では、1紙が1校、2紙が3校です。

【学校図書館の蔵書】について

小・中学校に共通する課題は、蔵書(特に図鑑や辞書・事典)が古いことです。購入図書を選ぶ時期が年間2回に限定されていて、リクエスト本や旬の本をタイムリーに入手できないことが課題になっています。

これらの課題を解決して、学校図書館が「学習・情報センター」としての機能を発揮するためには、学校図書館と市図書館がネットワークで繋がれ、資料の有効活用を図ることが求められています。

【学校図書館の環境】について

学校によっては、学校図書館がオープンスペースのため、読書に集中できないことや、小学校の大規模校や中学校では、1クラス分の人数を収容するための図書館スペースの確保等が課題になっている場合もあります。(書架の置き方により、解決できる場合もあります。)

【学校司書】について

学校司書の兼務配置並びに学校アシスタントの配置による学校が多くをしめているのが現状です。さらに、子どもと本をつなぐために、小・中学校に共通している要望は、学校司書の全校配置による常駐です。

ただし、学校司書の兼務配置並びに学校アシスタントの配置には、感謝している声が学校から出ています。

項目	23年度末調査時点	29年度末調査時点
専任配置校	1校	1校
兼任配置校	14校	14校
未配置校	0校	0校

【市図書館】について

特に小学校から、以下の要望が出ています。「授業で使えるブックリスト(テーマごと、他の学校で貸出した本等)を準備してほしいこと」、「大型絵本も他の本と同様に、取寄ができるようにしてほしいこと」等です。

一方、本の団体貸出及び本の配送サービスには感謝しているという声が多いです。

【その他】

小学校からは、以下の要望が出ています。「感想文・感想画用の図書、図鑑、年鑑等、定期的に入替すべきものは、別予算で確保してほしいこと」、「平成23～25年度の学校図書館活用モデル事業、学校図書館アドバイザー事業、子ども司書育成事業等で取り組んできたことを市として生かす方策を示してほしいこと」等です。

また、中学校からも、「情報が古く役に立たない本の入替をしてほしいこと」が要望として出ています。

◆重点方策◆

★子どもと本をつなぐため、図書館に「人」が不可欠であると考え、学校司書の全校常時配置を目指します。

★学校図書館と市図書館とのネットワーク化を目指し、資料の相互利用・有効活用ができるようにしていきます。

★学校図書館や市図書館の資料を、授業や読書活動で積極的に活用していきます。

◆取組◆

①読書環境の整備

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
学校図書館間及び学校図書館と市図書館間のネットワーク化	小・中学校 15校の図書館管理システムは導入されているが、学校間のネットワーク化はされていない。よって、①児童生徒が資料を検索する際に時間がかかること②他校の蔵書を活用できないこと③市図書館の団体貸出本を家庭では利用できないこと等の課題がある。	学校図書館間及び学校図書館と市図書館間のネットワーク化を目指す。連携によるメリットとして、①資料検索が容易になること②インターネットで各学校の蔵書検索が可能になること③市図書館の資料を学校側で直接貸出管理ができるようになること等が考えられる。
学校図書館の蔵書の充実 (調べ学習対応)	学校図書館「図書標準」の基準はクリアしているが、古い本が多いので、児童生徒の興味・関心を持たせにくい。また、調べ学習の際、必要な本が十分確保できていない。	上記のメリットがあるのでネットワーク化を目指すとともに、蔵書を増やす。市図書館の団体貸出を利用して、一時的に学校図書館に図書の配置を行う。
学校図書館の開館時間の延長	学校司書が常時勤務する1校以外では、学校司書が勤務する時間帯のみ開館している。もしくは、図書委員がいる時間帯しか開館していない。そのため、借りたい時に借りられないなどの課題がある。	学校司書の全校常時配置を目指す。

②読書に親しむ機会の提供

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
読み聞かせ	小学校は、全11校で読書ボランティアによる読み聞かせが行われている。中学校は、4校中1校で読書ボランティアによる取組がみられる。	小学校では、大人の読み聞かせとともに、委員会活動を通して高学年または子ども司書による読み聞かせを展開していく。中学校でも、生徒会活動を通して、上学年による読み聞かせを展開していく。
週1回以上朝の読書活動の実施	「朝の読書活動」については、小学校では全11校で行っている。また、中学校では学年に応じてではあるが、3校が行っている。	朝の読書活動は、全小中学校での取組を目指す。朝の読書「おすすめリスト」を作成するなどし、内容・質の充実を図る。
特別な支援を要する子どもへの配慮	特に中学校では、絵本が少なく要支援の子ども読書活動のために、適切な本がない。	要支援の子ども状態や発達段階に合わせた資料の提供を行う。

③読書活動の啓発・広報

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
図書の紹介と広報活動	担任等・学校司書及び図書委員によって行われている。掲示物は、どこの学校でも整っているが、広報紙の発行や読書週間の取組などには学校により差がある。	委員会活動の取組で校内放送や集会時に広報活動をする。 PTA新聞に読書コーナーを設け、家庭読書の推進を呼びかける。
保護者への家庭読書の推奨	児童生徒の貸出冊数は多いが、保護者のアンケートからは、本を借りても読んでいない児童生徒もいるようである。	家庭の取組としての「家読（うちどく）運動」と学校からの「ノーメディアデー」の取組を奨励する。
学校図書館の利用案内	主に新生児に対して、担任等と学校司書が行っている。 学年に応じた使い方（貸出返却、辞書・事典の使い方等）のオリエンテーションが行われていない学校もある。	読書活動の先進校で行われてきた取組の成果を、各学校で共有し全校に広げる。

④ネットワークづくり

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
市図書館資料を利用しての授業や読書活動の推進	学校図書館の資料だけでは十分でないため、市図書館が実施している本の「団体貸出」及び「配送サービス」を利用している。 学校により利用に関して偏りがあること、授業で使用する場合に単元の重なりで本が不足すること等が課題である。	単元別のリスト「おすすめ50選」の改定を行い、利用促進を促す。 不足する分野の本は、来年度以降、優先的に購入するよう努める。
学校図書館と市図書館の連携	学校と市図書館が連携して行っている「本の配送サービス」や「移動図書館」などは、定着してきている。両者間の話し合いをさらに深めたい。	学校図書館担当教員と学校司書間、また学校司書と市図書館司書間で、連絡・調整をしよう機会を重視する。
読書ボランティアとの連携	読書ボランティアと学校側との情報交換の場が少なく、それも学校により差が生じている。	学校図書館担当教員・学校司書及び読書ボランティアとの連絡・調整をしよう機会を定期的に持つよう努める。

⑤専門的職員の確保と資質向上

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
学校司書の全校常時配置	小学校1校は常時配置であるが、その他は7名で14校を分担兼務している。学校図書館には、常に「人がいる」環境が必要である。	すべての学校で学校司書を常時配置するよう努める。
教職員及び学校司書の研修並びに会議の充実	学校司書会議は原則毎月第3水曜日に開催している。 研修は県立図書館主催の研修に参加している。	学校図書館活用の先進校を見学し、その運営や取組について研修の実施に努める。

D 市図書館における読書活動の推進

◆現状と課題◆

国東市は、平成18年に4町が合併して誕生し、各町がそれぞれ運営していた図書館が市に引き継がれました。合併後は各町が行ってきた行事や蔵書構成などの特色をできるだけ残しつつも、地域によってサービスに差が生じないように留意した運営をしています。

中学生以下の子どもの市図書館の貸出カード登録率は73%です。ただし、義務教育段階の子どもの登録率は100%に近いのに、未就学児については、未だ相当数の未登録者がいるのが現状です。

項目	23年度末調査時点	29年度末調査時点
中学生以下の子どもの市図書館の貸出カード登録率	73%	73%

市図書館間は、平成21年にネットワークでつながり、その後物流システムも構築されたため、市内所蔵の児童書約72,000冊（紙芝居含む）が市内どこの市図書館でも貸出、返却ができるようになりました。

また、市図書館では、子ども向けのサービスとして、毎月の「おはなし会」や季節に関する「図書館行事」を行っています。そして、平成23年度より、4・5か月及び1歳6か月の健診に合わせて、本の読み聞かせを行い絵本を贈る「ブックスタート事業」も行っています。

さらに、平成29年度には、4館を巡るスタンプラリーや市図書館見学バスツアーを計画しました。特に初めての試みであるバスツアーは好評で、来年度も続けてほしいという声が多くありました。ただ、4館を巡るスタンプラリーでは、子どもたちには交通手段がなく、大人の協力なしでは参加が難しく、参加をあきらめた子どももいました。

市図書館から遠い子どもたちにも読書に親しむ機会をより増やすために、小学校への「移動図書館」の運行をしています。読みたい本のリクエストを募っていますが人気の本は重なり、リクエストに十分応えられているとは言えません。

ところで、これまで紹介してきた事業は、幼児から小学生が主対象であり、中高生が参加しやすい事業をあまり開催できていません。唯一中高生を対象とする事業としては、各校がキャリア教育の一環として計画する「職場体験学習」及び「インターシップ」を受入していることです。たとえ小学生の間に頻りに市図書館を利用しているとしても、中学生になると部活動や課題に追われ、足が遠のくようです。

「子どもが集まる施設」や学校には、50冊を1か月間借りられる「団体貸出」を行っています。施設や学校により利用に差があり、浸透しているとは言えません。また小中学校に対しては、平成23年度より先生や学校司書の要望に応じて授業や読書推進のための資料を配送する「本の配送サービス」事業を開始しました。平成29年度には、学校間の物流も行うようになりました。これらの取組によって、図書館の利用は増えていますが、中学生の利用があまり増えていないのが課題です。

様々な事業や図書館行事を開催する上で、各種機関との連携、事業や行事における広報のあり方等に、不十分な点があることを痛感しています。特に、小中学校以外の施設等への働きかけや連携について、効果的な方法を探っていく必要があります。

また、国東市では現在、多くの団体や個人の方が読書ボランティアとして「子どもが集まる施設」・学校・図書館で読み聞かせを行っています。ただ、読書ボランティア間で情報交換をするような機会は、特に設定されていません。ところが、読書ボランティアの団体によっては、読み聞かせをしている子どもが集まる施設・学校・図書館との情報交換を密にすることを望んでいることが判明しました。この点についても、解決が求められています。

◆重点方策◆

★子ども（0歳～18歳未満）たちの年齢に応じた、市図書館資料の充実・整備に努めます。

★幅広い年齢の子どもたちに多数参加してもらえる行事や見学会などを開催していきます。行事の内容を工夫し、子どもが集まる施設や学校に参加を呼び掛けます。

★「子どもが集まる施設」や学校で読書活動が推進されるように、資料の団体貸出や広報紙の配布を積極的に行います。また、読書ボランティアや読み聞かせに関わる講師の紹介など、様々な形で協力していきます。

★読書ボランティアグループと連携を図り、読み聞かせの資質力量の向上や市図書館資料に関する理解を深めてもらうための研修会の企画や開催を行います。

◆取組◆

①読書環境の整備

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
児童書の充実	学校への「本の配送サービス」で、学校がどういう本を必要としているのかが分かってきたので、選書・購入の参考にしている。 「移動図書館」の際のリクエスト調査では、市図書館の蔵書リストが基準となるので、それだけでは分からない部分がある。	選書に関する意見を広く聴取する。学校への「本の配送サービス」や「移動図書館」でリクエストされた内容を分析し、選書の参考にする。 児童がどんな本に興味があるのかを知るためにも、「移動図書館」のリクエスト以外の方法でも調査する。
絵本・おすすめの本の展示	数多くの本の中から、目的に合わせて本を選ぶのは難しいという利用者からの声に対応して、本に興味を持ってもらうためにいろいろな角度からテーマを決めてコーナーを設定している。 展示コーナーに、他館の本を取り入れることで、利用者により多くの本を提供できるようになった。	今後も展示コーナーの充実を図る。 利用者の意見を取入れた展示コーナーの検討を図る。
中高生向け読書環境の整備	各図書館で、中高生向けの本のコーナーを設置している。しかし、利用する中高生が固定化し、人数も少ないのが課題である。 図書館には来るが、目的が読書ではなく勉強やその他に向いている。	夏休み等長期休業日前に、中高生向けのブックリストを作成し、配布する。 来館が難しいのなら図書館から動くことも必要である。

②読書に親しむ機会の提供

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
「おはなし会」の開催	各館で月1～4回、読書ボランティアと共に開催している。簡単な工作や写真のプレゼントをしている館もある。参加者が少なかったり、特定の人しか参加していなかったりしている。	参加者が固定化したり、参加人数が少なかったりする時があるので、「おはなし会」の日程表を子どもが集まる施設に配布する。その際に要請に応じて、司書が説明をする。
「市図書館行事」の開催・開発	旧町から継続しているイベントに加え、平成29年度より4館合同でスタンプラリーを開催している。また、今回開催した4館見学バスツアーは、ケーブルテレビで放送されて図書館PRにも繋がった。 ただし、児童一人で来館するのは難しい場合があることや、中高生向けのイベントが少ないのは課題である。	幅広い年齢の子どもが参加しやすく、これまで図書館に目を向けなかった利用者が関心を持つように、行事の企画を行っていく。 図書館内で実施するイベントには、学校司書の協力を求める。 行事のPR方法として、SNSの活用を図る。 中高生向けのイベントを企画する。
「読書週間」における行事の開催	春と秋の読書週間に、4館で行事を実施している。小学生以下の参加は多いが、中高生の参加が少ない。	同上

③読書活動の啓発・広報

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
市図書館広報	図書館広報紙「どくしょがいちばん」を月1回発行している。子ども向け広報紙「こどもどーなっつ」を年4回発行して、新着情報や図書館行事のお知らせ等を行っている。また、ケーブルテレビや市報で新着情報を公開している。アンケートでは、69%の人が図書館の広報を活用していない実態がある。	紙媒体の広報も大事ではあるが、今は携帯等SNSの普及に伴い、利用者側が情報を得るための手段が変わってきている。中高生や保護者に向けた広報の充実を図る。
読書活動の啓発講座の開催	講師を招いての読書の意義や読み聞かせに関する講演会、その他講座などを開催している。	回数を多く行えるよう、講師のリストアップを行っていく。必要に応じて、子どもが集まる施設に講師を紹介していくことも検討する。
読書ボランティアの活動の紹介	これまでは、全く行っていない。	読書ボランティア連絡会を開催するとともに、国東市の読書ボランティアのグループを広報等で「子どもが集まる施設」や学校に紹介する。

④ネットワークづくり

項目	現状と課題	課題の解決に向けて
子どもが集まる施設への「資料提供サービス」の実施	図書館側から、一部の子どもが集まる施設に出向いて、団体貸出等の説明をしている。除籍した児童書の譲渡を実施している。	団体貸出等の説明を行っていない子どもが集まる施設には、要請に応じて情報提供に赴く。
学校向け「移動図書館」の実施	実施回数に変化はなく、学校司書と連携しながら実施している。利用を増やすために、月毎に4館分の新着リストを作成している。	各学校で利用率にバラつきがあるので、その点が改善できるように検討する。「移動図書館」のリクエストを増やす。
学校向け「本の配送サービス」の実施	教員や学校司書の要望に応じて、授業や読書のための資料を配送している。学校によって利用に偏りがある。また、授業単元の重なりで本が不足することもある。学校司書と連携して、単元等で必要な本が重なる場合の改善を図っている。	引き続き単元に沿った選書購入の検討を図っていく。
図書館見学会の受入	申込があった「子どもが集まる施設」や学校について、団体での図書館見学を受入している。図書館見学を行う「子どもが集まる施設」はまだ少なく、図書館に来館した経験のない子どもが相当数いる。	学校や「子どもが集まる施設」に、図書館見学の受入をPRしていく。
職場体験学習、インターンシップの受入	申込があった中学校の職場体験学習の受入をしている。また、同様に高校のインターンシップの受入もしている。日時や人数により対応できない場合もあるが、可能な限り対応している。	これからも、中学生の職場体験学習や高校生インターンシップの受入可能を、学校に対してPRしていく。

⑤専門的職員の確保と資質向上

項 目	現状と課題	課題の解決に向けて
司書の資質力量の向上を図る研修の実施	県立図書館の研修、市の職員研修に参加している。図書館独自の研修は実施できていない。	司書の資質力量の向上に向けて、図書館主催の研修の実施に努める。県立図書館職員の講師派遣を活用する。
読書ボランティアの資質力量の向上を図る研修会の開催	県立図書館で読書ボランティア向けの研修会が開催される時には、案内を出している。旧町単位では、過去に研修を実施した経緯があるが、市全体では未だ開催できていない。	市全体として、市図書館の呼びかけで、読書ボランティア・グループの交流会や研修会の開催に努める。